

(平成18年10月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>10月期の野菜の市況については、夏以降、全国的に安定した好天候に恵まれたことにより、一部を除いては、主要野菜は順調な出回りとなった。結果として入荷量は、前年並みを確保することができた。</p> <p>価格は、順調な入荷から安値基調ではあったものの、最終的には前年並みとなった。</p> <p>品目別には、キャベツ、たまねぎ、まつたけが入荷減の単価高で推移し、長大根、ほうんそう、きゅうり、レタス、なすは入荷増の単価安で推移した。西洋にんじん、トマト、ピーマンは、入荷増ながら単価高となった。ばれいしょは、入荷量・価格ともに前年並みとなった。</p> <p>根菜類は、入荷が6%増加し、価格は前年並みとなった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は8%安となった。 果菜類は、入荷が13%増加し、価格は前年並みとなった。 土物類は、入荷が6%減少し、価格は10%高となった。</p>
果 実	<p>10月期の果実の市況については、みかんの裏年と柿の台風や虫害の発生などにより、入荷量全体としては、前年同期を15%下回った。</p> <p>価格は、入荷減から前年同期を28%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が33%減少し、価格は70%高となった。 りんごは、入荷が14%増加し、価格は9%高となった。 柿は、入荷が13%減少し、価格は31%高となった。 ぶどうは、入荷が19%減少し、価格は18%高となった。 メロンは、入荷が10%減少し、価格は15%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p> <p>長大根</p> <p>洋人参</p>	<p>北海道，青森を主力とする入荷。加工用及び契約販売分の伸びがよく，また，後続産地の北陸関係が豊作傾向であったことから順調な入荷となり，結果として入荷量は，前年同期を6%上回った。</p> <p>価格は，入荷増から前年同期を23%下回った。</p> <p>北海道を中心とする入荷。上旬は，生育期の天候不良から入荷が少なかったが，中旬以降の生育の回復とともに順調な入荷となり，結果として，前年同期を10%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら前半の品薄による高値傾向から結果として，前年同期を48%上回った。</p>
<p>【葉菜類】</p> <p>はくさい</p>	<p>長野を中心に，滋賀，北海道，茨城からの入荷。上旬までは，8月の高温・早魃の影響から入荷は少なかったが，9月下旬の降雨により中旬以降は生育の回復とともに順調な入荷となった。結果として前年並みの入荷となった。</p> <p>価格は，中旬以降の入荷増による流通在庫が多く，急激な下げ市況となり，結果として，前年同期を15%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>長野，群馬，北海道の夏秋産地に加え，茨城，鳥取，愛知の秋冬産地の入荷。夏秋産地は高温早魃の影響から，また，秋冬産地は9月下旬の降雨の影響から出荷量が伸び悩み，結果として前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は，後半の茨城産の入荷とともに下げ市況となったが，前半の品薄傾向から，結果として前年同期を33%上回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>岐阜を主力に京都，滋賀，徳島，長野からの入荷。中旬以降に秋冬産地の入荷が始まり，下旬にかけて順調な入荷となった。また，近郷産地は好天候に恵まれたため，10日程度の前進出荷となり，結果として，入荷量は前年同期を25%上回った。</p> <p>価格は，下旬にかけて急激な入荷増となり，結果として前年同期を32%下回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野の残量に加え，茨城，兵庫，徳島の秋冬産地からの入荷。長野産は，降霜の被害も無く順調に入荷し，後続の茨城産へも順調に切り替った。結果として，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，入荷が重なった中旬以降に下げ市況となり，前年同期を9%下回った。</p>

<p>【果菜類】</p> <p>きゅうり</p> <p>なす</p> <p>トマト</p> <p>ピーマン</p>	<p>北海道，宮崎，滋賀，福岡，高知を中心とする入荷。各産地ともに生育作柄が良好で，順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を11%上回った。</p> <p>価格は，入荷増から，総じて安値基調となり前年同期を29%下回った。</p> <p>京都を主力に徳島，高知を中心とする入荷。秋からの好天候により，成育も良好で順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を21%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を3%下回った。</p> <p>北海道，岐阜，茨城を中心とする入荷。夏場の悪天候の影響から品質不良が見られたが，入荷は順調に推移し，結果として，入荷量は前年同期を13%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら前年同期を3%上回った。</p> <p>大分，茨城，宮崎，兵庫を中心とする入荷。大分，兵庫については，生育不良の中，促成産地の宮崎，高知が天候に恵まれ，前進出荷となった。結果として，入荷量は前年同期を16%上回った。</p> <p>価格は，各産地の入荷ピークが重ならず順調な販売となり，前年同期を6%上回った。</p>
<p>【土物類】</p> <p>ばれいしょ (メーク含む)</p> <p>たまねぎ</p>	<p>北海道を中心とする入荷。小玉傾向ではあったが順調な入荷となり，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，入荷量と同様に前年並みとなった。</p> <p>北海道を中心に兵庫からの入荷。北海道は，生育期の天候不良からやや小玉傾向となり，入荷量は，前年同期を12%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，輸入品も入荷減となったため，前年同期を7%上回った。</p>
<p>【菌茸類】</p> <p>まつたけ</p>	<p>中国を中心に北朝鮮，韓国，トルコからの入荷。中国の旱魃の影響から入荷が少なく，また，北朝鮮産が核実験の影響から13日で入荷中止となり，結果として，入荷量は前年同期を28%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，秋の需要期により，前年同期を34%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	<p>和歌山，福岡，長崎，愛媛からの入荷。裏年にあたることと早魃による小玉傾向から，入荷量は前年同期を33%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，少ない大玉の価格が引き上げられたことにより，前年同期を70%上回った。</p>
つがる （サン含む）	<p>青森を中心とする入荷。着色が遅れていたものが今月に入荷し，入荷量は前年並みを確保することとなった。</p> <p>価格は，競合品目の早生ふじが高値推移する中で，買いやすい価格帯として順調に伸び，前年同期を10%上回った。</p>
千 秋 （サン含む）	<p>秋田，青森を中心とする入荷。各産地ともに栽培面積が減少しており，入荷量は前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は，入荷量が減少したことと小玉に買いが集中したことによって，結果的に前年同期を5%上回った。</p>
富有柿	<p>奈良，福岡を中心とする入荷。福岡産は台風の被害から，落下品が多く発生し，また，奈良産はカメムシの発生と高温による着色不良によって出荷量が減少した。結果的に，前年同期を11%下回った。</p> <p>価格は，入荷減から前年同期を16%上回った。</p>
刀根柿	<p>奈良，和歌山を中心とする入荷。各産地ともに小玉傾向と寒暖の差が少なく着色の遅れにより出荷量は減少した。入荷量は，前年同期を20%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により，前年同期を41%上回った。</p>
巨 峰	<p>長野を中心とする入荷。中旬までは順調に入荷したが，下旬にかけて出荷が終了し，結果として入荷量は前年同期を20%下回った。</p> <p>価格は，入荷減のため急騰し，前年同期を19%上回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡を中心に茨城，愛知，石川，鳥取からの入荷。石川産が上旬で終了し，茨城，愛知も出荷量が伸びなかったため，入荷量は前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により，前年同期を18%上回った。</p>

くり	<p>愛媛，京都を中心とする入荷。全般に小玉傾向から入荷が少ないが，京都産が生育の遅れから今月に集中したこともあり，結果として，前年同期を58%上回った。</p> <p>価格は，入荷増と小玉傾向によって前年同期を40%下回った。</p>
----	--